

# リクルーター・面接官向け検定試験の概要

2021年10月5日

一般社団法人日本採用力検定協会

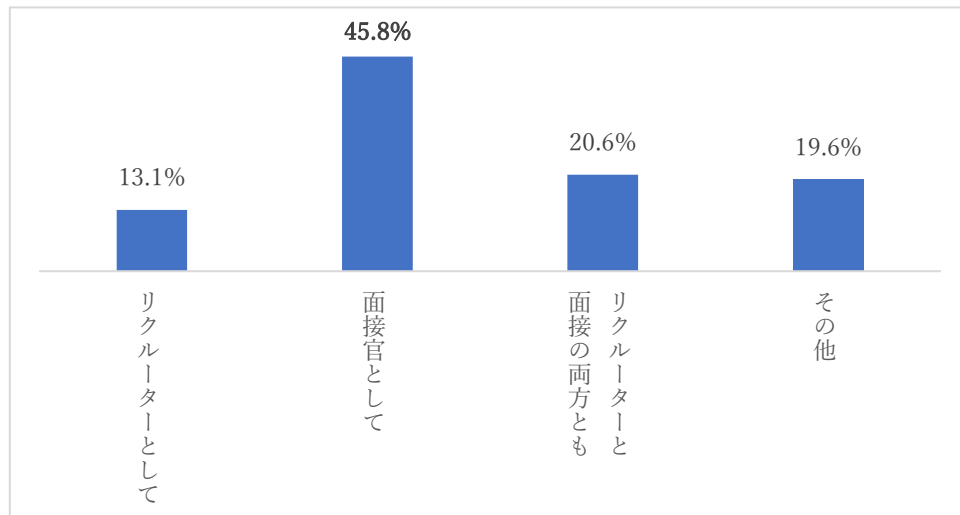
この度、日本採用力検定協会ではリクルーター・面接官向け検定試験を実施しました。本資料では、リクルーター・面接官向け検定試験について、どのような人が受験したか、正答率はどの程度であったか、難易度や事前学習は行っていたかといった観点で受験結果を整理しています。

## 1. 受験者の内訳

初めに、リクルーター・面接官向け検定試験の受験者に関する特徴を紹介します。

### ◆採用との関わり方

現在の採用業務への関わり方については、面接官が最も多く、次いでリクルーター・面接官を兼務している方が多い結果となりました。リクルーターとしてのみ関わっている方の受験は1割程度です。

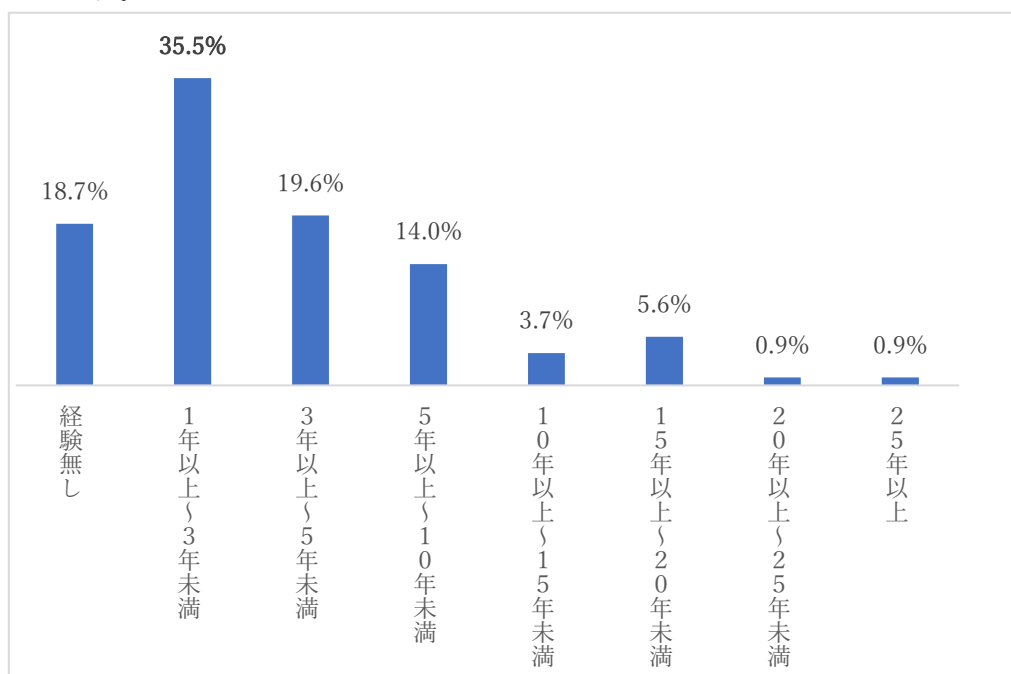


質問2（現在、「採用」にどのように関わっていますか）の回答分布（単位：%）<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 欠損値（0.9%）は除外しているため、合計は100%にならない。

◆人事の経験年数

採用を含む人事労務経験年数については、10年未満の受験者が約7割を占め、特に「1年以上3年未満」の受験者が最も多い結果となりました。人事の経験がない方も2割弱、受験しています。



質問3（採用を含む、人事労務経験年数は何年ですか）の回答分布（単位：%）<sup>2</sup>

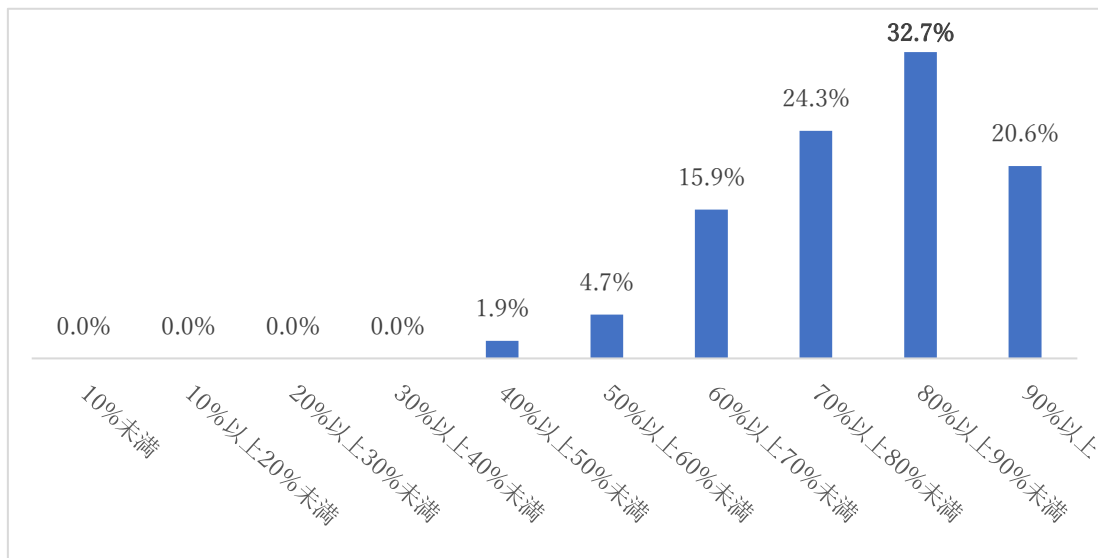
<sup>2</sup> 欠損値（0.9%）は除外しているため、合計は100%にならない。

## 2. 正答率

続いて、リクルーター・面接官向け検定試験における正答率について紹介します。

### ◆正答率の平均

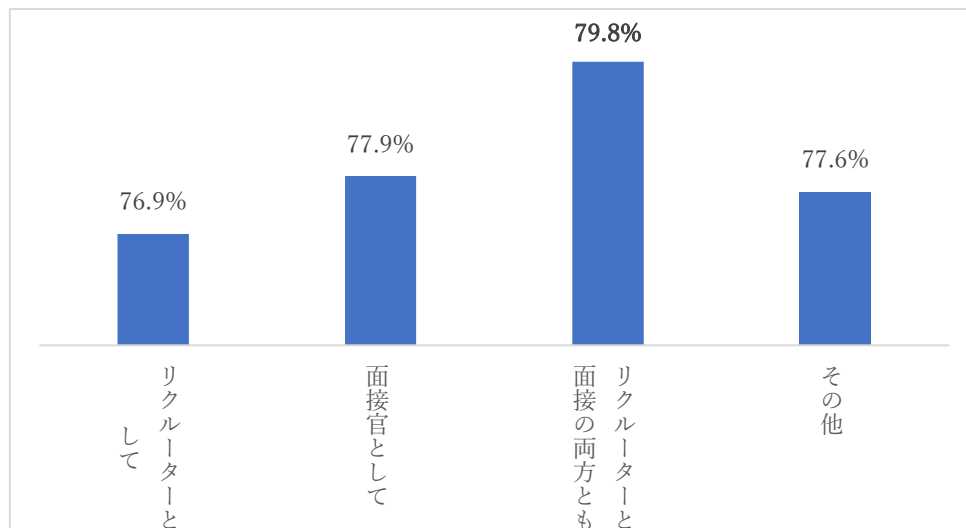
受験者全体の正答率の平均は「78.0%」でした。最も多いのは80%以上90%未満であり、正答率が40%未満だった受験者はいませんでした。



正答率の分布 (単位：%)

◆採用との関わり方と正答率

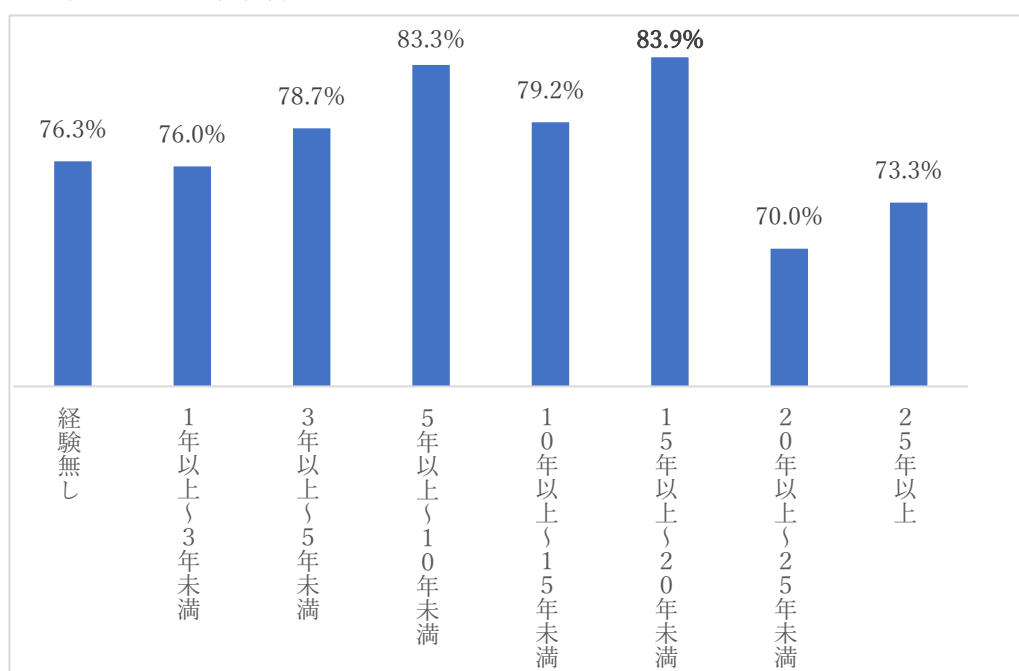
採用との関わり方によって正答率に大きな差はありませんが、リクルーター・面接官を兼務している方の平均正答率が最も高い結果となりました。



正答率×採用との関わり方 (単位：%)

◆人事の経験年数と正答率

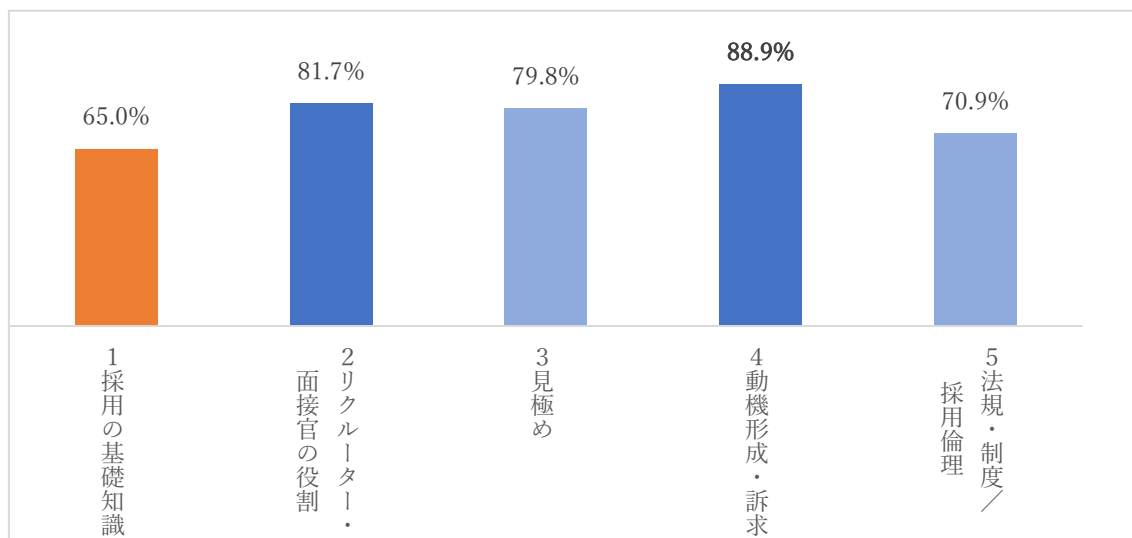
人事の経験年数による差はそこまで大きくありませんでしたが、15年以上～20年未満が最も高く、次いで5年以上～10年未満という結果となりました。一方、正答率が最も低いのは20年以上～25年未満でした。



正答率×人事の経験年数 (単位：%)

◆領域ごとの平均値

相対的に正答率の高い領域は、動機形成・訴求、リクルーター・面接官の役割などでした。逆に正答率の低い領域は、採用の基礎知識でした。自身の業務に直接関わるような知識は充実している一方、採用に関する知識については課題があるといえます。



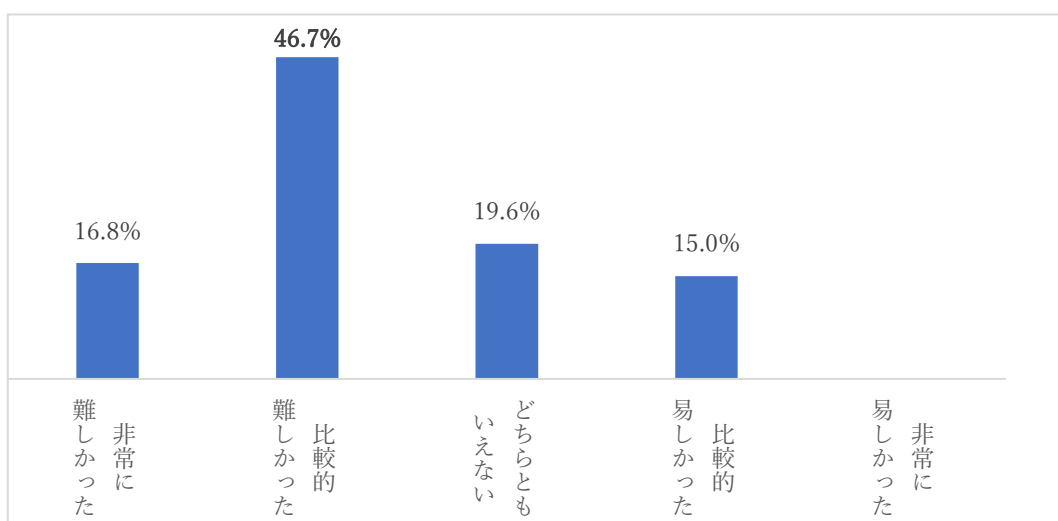
正答率×回答領域（単位：％）

### 3. 難易度と事前学習

最後に、リクルーター・面接官向け検定試験の受験者による主観的な難易度、及び、検定に先立つ学習状況について紹介します。

#### ◆主観的な難易度

リクルーター・面接官向け検定試験の難易度については、比較的難しかったと感じる受験者が最も多く、「非常に難しかった」を合わせると半数以上となりました。

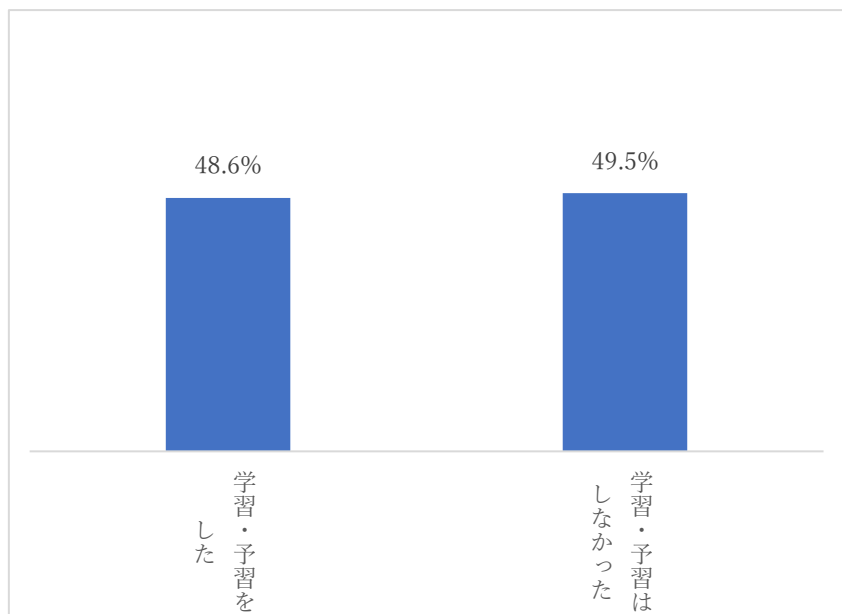


質問4（採用力検定試験を受験してみて、難易度はどう感じましたか）の回答分布<sup>3</sup>  
(単位：%)

<sup>3</sup> 欠損値（1.9%）は除外しているため、合計は100%にならない。

◆事前学習の有無

リクルーター・面接官向け検定試験の前に予習を行った人と、行わなかった人の割合はほぼ同率でした。



質問 5（採用力検定試験受験に際し、学習・予習（参考図書を読む等）をしましたか）の回答分布（単位：%）<sup>4</sup>

以上

<sup>4</sup> 欠損値（1.9%）は除外しているため、合計は 100%にならない。